

提出日 令和6 年 1 月 12 日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会
2023年度漢字まなび活動助成制度 活動報告書

団体名: 福島県漢字同好会

代表者名: 会長 八重樫 一

下記の活動について活動を終了いたしましたので、報告いたします。

1. 活動名	澁澤尚教授講演会		
2. 活動日 活動期間	令和5年12月3日(日)		
3. 活動場所	郡山市労働福祉会館 大会議室		
4. 活動目的	漢字に親しみ、興味を持っていただくこと。漢字文化への理解を深めること。		
5. 対象	同好会会員・一般の方		
6. 参加費	無料		
7. 参加人数	75	名	内訳(小学生0名、中学生0名、高校生0名、大学生2名、一般73名)
8. 活動結果 (自由記述・写真貼り付け等可)	1 演題『四字熟語でたどる古代の飲食文化と故事成語』 2 内容 全カラー9頁に及ぶ資料に厳選された漢文や漢詩を題材に、当時の人々の生活や思想がどのようなものであったか、飲食文化とそこから発生した故事成語について、成り立ちや歴史的背景をひも解きながら、分かりやすく解説していただいた。 3 感想 漢詩や歴史書の中に散りばめられた、食べ物や食事、そしてお酒にまつわる話がたいへん興味深く、同じお酒を題材としても、『李白』と『李賀』の漢詩の趣の違いを感じたり、『劉伶解醒』では飲みすぎを諷める夫婦のやり取りに思わず笑いが起こったりと、古代の人々を生きた人間として身近に感じることができた。 また、結語では『史記』の『酒池肉林』の語源となった記述を取り上げ、『酒』と『肉』を文字学的原義に遡って解説いただくと、暴君として名高い紂王が、酒や肉を供え祭祀する『祭政一致』の殷王朝において、諸国の脅威に怯え神々を恐れ敬う信心深き王としての姿にも見えてきた。 歴史書が勝者側の立場によって記録されることに改めて気づかされ、歴史書を多角的な視点から読み解く面白さにも触れることのできた講演でもあった。 参加者からも、「もっと話が聞きたい」と次回の開催や同好会について多数問い合わせいただき、同好会の新規の参加希望者へつながった。		

以下の資料を必ず添付して申請してください。

☒ 【様式2-2】漢字まなび活動助成制度 収支決算書☒ 収支決算書に記載した費目の領収書のコピー(折り曲げず、領収書貼付用台紙に貼り付けて提出ください)

・複数ページにまたがっていただいても結構です。

・本報告書の内容は、当協会ホームページ等で公表します。写真等は公表しても差し支えないものをご提供ください。

書類の送付先

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 「漢字まなび活動助成」係

メール:planning@ic.kanken.or.jp

郵送:〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地

2023年度 澁澤尚教授講演会

